

施策番号 3-1-3	施策名 防犯対策と交通安全の推進	基本目標	快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり		
		政策名	安全安心に暮らせる生活環境づくり		
	主管課	総務課	課長名	安田敦史	内線 211
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
地域が一体となった防犯体制・交通事故防止に向けた取組みをすすめます。		町民 町内会	・犯罪事件発生抑制 ・交通事故の未然防止					町民の日常生活の安全安心が確保される	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)	
① 芽室町内で発生する犯罪件数(H25-30平均)	帯広警察署調べ	件	110	95	86	99件以下	99件以下	99件以下	
② 芽室町内で発生する交通事故件数(H25-30平均)	帯広警察署調べ	件	51	18	19	45件以下	45件以下	45件以下	
③ 安全安心情報配信登録者数	総務課調べ	件	953	1,465	1,586	3300件	4000件	4000件	
成果指標設定の考え方	① 前期実施計画平均値(H25-30)の10%減である99件を目標値に設定したもの。 ② 前期実施計画平均値(H25-30)の10%減である45件を目標値に設定したもの。 ③ 計画策定当時の世帯数(7,677)の約50%である4,000件を目標値に設定したもの。								

2. 施策の事業費

	26年度決算	27年度決算
施策事業費(千円)	14,460	14,939
人工数(業務量)	1,0951	1,0930

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成27年度の成果評価(前年度比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	関係機関等との連携により、前年度比較で成果が向上した。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	①・② 関係機関との継続かつ恒常的な連携により、目標値達成は可能と思われる。 ③ 安全安心情報(安心メール)配信登録者については、防犯情報だけではなく、災害及び気象情報等の発信機能であることも周知し、登録者の増加を図ることで目標値達成は可能と思われる。
(2) 施策の成果評価に対する平成27年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	交通安全対策事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	防犯対策事業		
	少年補導員会運営事業		
	子どもの安全・安心確保対策事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	・ 犯罪件数の減少は、関係機関・団体と行政との連携により実現できた成果である。 ・ 交通事故件数は、前年度対比1増であり、いっそうの取組みが求められるが、町内の各職場や団体から参加し実施している「旗の波作戦」や、学校や老人クラブで実施している「交通安全教室」などを継続し、いっそうの成果を目指すものである。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 防犯、交通安全対策は、行政や関係機関・団体、地域が強固に連携し裾野を広げた地道な活動が最も重要である。</p> <p>《今後の予測》 不審者対策、詐欺対策など、年々、巧妙化・凶悪化する中で地域・企業の役割はいっそう重要となる。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全指導員の人材確保対策の改善 ・ 道路標識の改善 ・ 改造自動車の取り締まり強化

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業成果の安定的な維持に向けては、地道な関係機関・団体との連携により継続的な取組みが不可欠である。 ・ より多くの住民が日ごろから防犯意識を持ち、異変や異状に気付いた都度、町や警察に通報する行為が未然防止の最大の手段であることから、当事者意識の重要性を住民に向けて発信していくことが求められる。 ・ ボランティア活動員(補導員)の構成員の高齢化や事件の凶悪性等も考慮し、今後の活動のあり方を精査・吟味する必要がある。
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	防犯協会、少年補導員会、学校、PTA及び町内会等の各種団体等と連携し防犯対策事業の推進をしており、施策として前進していると評価する。			○		
今後の取組に対する意見	今後も交通安全指導・啓発事業を進めてほしい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価		A	B	C	D	E
評価	犯罪件数が減少していることから前進していると評価する。			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> ● 雑草や樹木の枝によって見通しの悪い危険箇所の対処をしてほしい。 ● かすれている標識を更新をしてほしい。 	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				